

2025\_1205 「月明の孤立極光」日々の理科 4135 号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

オーロラというのはもともと淡い光芒なので、月明のない暗夜のほうがよく見えます。私は現地に 20 回ほど行きましたが、満月に近い夜のオーロラ観望はあまり期待していませんでした。しかし数年目にスウェーデン北部の「ビッタンギ村」と「マスグンス村」の中間の雪原で、満月の晩に見たオーロラに心を奪われました。実際に透き通ったオーロラで、しかもまるで手が届きそうなほど近くに見えたのです。

この写真も、ほぼ満月の晩に東京から遠隔観測したものですが、その時に見たオーロラとよく似ています。オーロラの実体は観測者（地表）から見て、雲よりも数十倍遠くにあるはずなのですが、写真でも「雲よりも手前にあるように」写っています。これは、現地で肉眼で見た印象に非常に合致しています。

私は全天を覆うような明るいオーロラ爆発（ブレイク・アップ）よりも、こういう孤立した控えめなオーロラが好きです。何か北極圏の上空に起きた「小さなドラマ」のようなものを感じるからです。北極圏は間もなく一日中太陽が昇らない「極夜（きょくや）」の季節を迎えます。

（2025 年 12 月上旬／スウェーデン・ヨックモック郡・ポルユス駅／東京から遠隔観測）

